

必ず読んでください

五種混合（百日せき・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ・インフルエンザ菌b型）予防接種についての説明書

1. 病気について

- ◇百日せきは、百日せき菌の飛沫感染でおこります。主に気道の分泌物によってうつり、咳のために乳幼児では呼吸ができなくなるために全身が青紫色になってしまうこと（チアノーゼ）やけいれんを起こすことがあります。また、窒息や肺炎等の合併症が致命的となることがあります。
- ◇ジフテリアは、ジフテリア菌の飛沫感染でおこります。主に気道の分泌物によってうつり、喉などに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、眼球や横隔膜（呼吸に必要な筋肉）などの麻痺、心不全等を来して、重篤になる場合や亡くなってしまう場合があります。
- ◇破傷風は、土の中にいる破傷風菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。かかった場合に亡くなる割合が非常に高い病気です。口が開き難い、顎が疲れるといった症状に始まり、歩行や排尿・排便の障害などを経て、最後には全身の筋肉が固くなって、体を弓のように反り返らせたり、息ができなくなったりし、亡くなることもあります。
- ◇ポリオは、ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。腸管に入ったウイルスが、脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。
- ◇インフルエンザ菌、特にb型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な感染症を起こす、病原細菌です。インフルエンザの原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。

2. ワクチンについて

このワクチンは従来の四種混合ワクチンにHib（インフルエンザ菌b型）ワクチンを混合したものです。臨床試験において、接種後の発熱が高頻度に見られていますが、これは肺炎球菌ワクチンとの同時接種に伴うものと考えられています。まれに重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー様症状や血小板減少性紫斑病、けいれん、脳症があらわれることがあります。重い副反応はなくても、接種後1週間は副反応の出現に注意し、機嫌が悪くなったり、腫れが目立つときなどは医師にご相談ください。

3. 接種回数と間隔

対象年齢	接種回数と間隔
生後2か月～90か月未満	初回：20日以上の間隔をおいて3回（標準 生後2月から7月に至るまでに開始し、4週間から8週間までの間隔をおいて3回）
	追加：初回接種3回終了後6月以上の間隔をおいて1回 （標準 初回終了後6月から18月までの間隔をおいて1回）

4. 以下のことに注意してください

- ① 予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。分からないことは接種を受ける前に質問しましょう。
- ② 接種に連れていく予定にしているも、体調が悪と思ったら、やめましょう。
- ③ 子どもの日頃の状態を知っている保護者の方が連れていきましょう。また、卵などの食品や、薬などにアレルギーがないか日頃からよく注意をして見ておきましょう。
- ④ 予診票はお医者さんへの大切な情報です。責任を持って記入するようにしましょう。
- ⑤ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。母子健康手帳がないと接種できません。
- ⑥ 接種後は、30分間は接種場所で子どもさんの全身状態を観察しましょう。

5. ワクチンについて予防接種による健康被害救済制度について

定期接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

給付申請の必要が生じた場合には、大田市健康増進課へご連絡ください。